

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「県立鹿児島島工業高校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

創立110周年に向けて、更なる躍進を期待されるチーム鹿工

年間活動計画

- 第1回(6/13)・・・未然に交通事故や違反を防ぐための方策
- 第2回(11/16)・・・全教職員が高い規範意識を保ち続けるには
- 第3回(2/16)・・・地域から信頼され期待される高校の在り方

構成メンバー

近隣の小・中学校長，同窓会長，PTA会長，企業代表



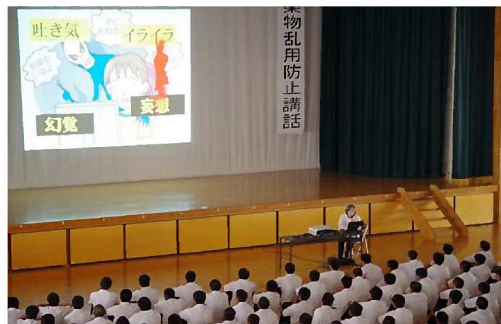
委員からの意見・要望

- ・全職員がチームとして取り組むためのスローガンを考えたら、職員の規範意識の高揚や服務規律の厳正確保に繋がるのではないかと。
- ・生徒の自転車通学生の苦情や事故が絶えない。減らすための方策は。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標『すべては、生徒の未来のために』

- ・私と家族の幸せを守るシート（毎月）を配布して、教頭が1項目ずつ読み上げて、各自セルフチェックを実施。その後は、今までの個人ファイルを活用して保管している。
- ・今年度も教職員の交通事故や違反が多いことから、事故映像と実験に学ぶ安全運転講座のDVDを全員で視聴し、ヒューマンエラーから起こる事故防止に役立った。
- ・チーム鹿工のスローガンを募集・・・日頃から、全教職員で生徒指導や学習指導、また資格試験や放課後の部活動の指導等が【すべては、生徒の未来のために】であるということを再認識させたい。同時に、教職員の仲間意識を更に強めて規範意識の高揚に繋げたい。
- ・薬物乱用防止教室（西警察署）とスタントマンによる交通教室（JAと県警の協力）を行ったが、全教職員も自分のこととして一緒に研修することができ大変有意義だった。
- ・人権同和教育の立場から、生徒にもっと自尊感情や自己肯定感をもたせたい。そこから相手を思いやる気持ちや相手意識をもたせ、職員の体罰防止に繋げる研修を実施予定。



今後の課題

- スローガンを掲示することにより地域や保護者に、学校の取組を理解していただき、生徒募集にも繋げたい。

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立指宿高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

校訓の「自主」・「好学」・「向上」の具現化を目指し、自他の生命を尊重し合い、活力と潤いに満ち、社会や地域の期待に応える学校

年間活動計画

- 第1回 6月9日(金)
学校経営方針、学校概況説明
- 第2回 8月28日(月)
警察講話教職員研修
- 第3回 12月15日(金)
授業参観、諸活動の中間報告
- 第4回 2月23日(金)
取組・学校評価の総括、提言

構成メンバー

市教委課長、中学校長2、
同窓会長、PTA会長、
PTA副会長(女性代表)、
校長、教頭、事務長、各主任



委員からの意見・要望

- 交通安全など職員の不祥事根絶の取組を推進してほしい。
- ホームページの充実など情報発信を工夫してほしい。中学生に「指宿高校は楽しい学校だ」とアピールしてほしい。
- 指宿高校生は人前で自由に意見交換ができる。アクティブ・ラーニング教育の成果か。
- 生徒は挨拶が良い。スマホや男女交際など継続的な生徒指導をお願いしたい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の本目標 生徒の個性の伸長、服務規律の厳正確保を図り、保護者・地域から信頼される学校づくり

○ 服務規律確保の取組

- ① 新聞記事「指高インフォメーション」で、自戒の機会を持つ
- ② 諸公文で職務遂行上留意事項の確認
- ③ 服務規律厳正確保の標語を全職員で作成し、毎月はじめに「服務規律チェック指高」に掲載、職員朝礼でセルフチェックに活用
- ④ ①②③を個人ファイルに綴り、年度末面談の資料とする
- ⑤ 警察による交通安全研修会
- ⑥ 懇親会後の帰宅交通手段調べ
- ⑦ 定時退庁の取組(月1回)

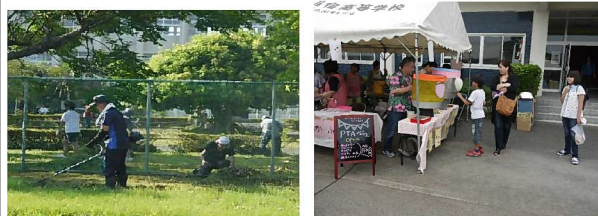
- ② 定期的なHP・ブログの更新
- ③ 中学校への出前授業、夜の学校説明会の開催
- ④ 地元新聞、市広報誌への情報提供

○ 保護者の学校支援の取組

- ① 文化祭でのバザー出店(おやじの会)
- ② 学年別親睦会での情報交換
- ③ 学校環境整備作業(夏2回のグラウンド除草作業)
- ④ 池田湖一周遠行の湯茶給水スポット

○ 服務情報発信の充実

- ① 年5回の学校だよりの発行、中学校・地域への配付による広報(柏葉通信・VIA指高)



今後の課題

- 今年度取組の継続・発展、生徒募集の継続した取組
- 職員の特別支援教育に関する理解、組織的対応の意識高揚

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立鹿児島水産高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

生徒・職員が自信を持って「自分の学校」と言える、地域に根ざした、開かれた学校

年間活動計画

- 第1回6月 経営方針と重点課題確認
- 第2回11月 経過報告と改善点の確認
- 第3回2月 成果報告と来年度への提言

構成メンバー

- ①中学校長, ②PTA会長
- ③同窓会長, ④地元企業役員
- ⑤地元漁業組合理事



委員からの意見・要望

- 1 安全第一・事故ゼロは必須の目標である。
- 2 自己満足にならない学校づくりを目指して、まずは教員から率先垂範してほしい。
- 3 地域協働を進めていくことで、地域に根ざし、地域に信頼される開かれた学校にしてほしい。
- 4 生徒・保護者と教員の信頼関係構築が大切である。

信頼される学校づくりを目指した取組

～マンネリは衰退である。工夫と改善を～

<考えよう>

- 1 教育目標・経営方針確認
- 2 全職員の気持ちを一枚岩へ
- 3 水産教育の広報活動の推進
- 4 服務規律遵守への取組

<実践しよう>

- 1 服務規律や危機管理まとめ発行
- 2 「モラルの向上」アンケート実施
- 3 地域協働を進める（コンカツ・各種コンテストへの出場）

<見つけよう>

- 1 校長の体験を元にした研修会の実施とグループ討議
- 2 地域協働における次年度への課題発見

<振り返ろう>

- 1 「教職員としての自覚と誇りを胸に」を掲載した身分証明書発行
- 2 地元催事への参加と意見集約

成果と課題

教職員の変容

- 1 研修方法の工夫により服務規律遵守に関する職員の意識が向上してきた。
- 2 地域協働により、地域を理解しニーズに応えようという姿勢ができてきた。
- 3 職員の服装等を含めた率先垂範意識が向上した。

保護者・地域の変容

- 1 PTA総会や体育祭等行事への参加者が増加した。
- 2 「どこでも授業」に高い関心を示している。
- 3 地域協働の活性化により北海道稚内高校との生徒間交流（薩摩青雲丸の稚内寄港）が実現した。

今後の課題

- 1 不祥事根絶を目指して研修の深化を図る。
- 2 PTA・同窓会との連携の更なる強化
- 3 県内唯一の水産専門高校として、学校理解と地域連携を充実し、どのように生徒募集に繋げるか。

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「県立出水工業高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

生徒から「ここで学んで良かった」、保護者からは「通わせて良かった」といわれ、地域の方々や同窓生からも感謝される学校

年間活動計画

- 第1回 平成29年6月13日
- 第2回 平成29年11月21日
- 第3回 平成30年2月22日

構成メンバー

PTA会長・副会長
同窓会長，中学校長(代表)
地域代表(本校卒業生)
校長，教頭，事務長
四部主任，工業科主任



委員からの意見・要望

- ・ 生徒の進路実現のために、学力向上や進路指導等について、保護者への説明・理解にも力を入れてもらいたい。
- ・ 教育活動や進路状況など、学校PRに力を入れ、生徒募集につないでもらいたい。
- ・ 生徒，職員も地域行事やボランティア活動など積極的に活動しておりありがたい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標：(年間スローガン)

職員も心をひとつに！ 支えあう出水工業

1 不祥事根絶に向けた取組

- 「オレンジ色の個人ファイル(デコプラ)の活用」(H28年度から)
→ 服務規律関係資料の保管と活用
- 出工コンプライアンスの発行(毎月末，セルフチェック含む)
- 交通標語による意識の高揚(毎週末の職朝起案掲載)

2 全職員で分担する服務研修

- グループ討議やロールプレイ等を取り入れた参加型の研修
- 不祥事に関する新聞記事等の活用

3 不祥事根絶に向けた本校スローガンの設定と取組

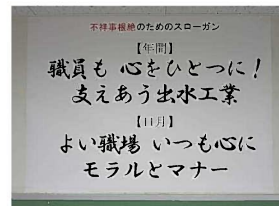
- スローガン募集と全職員投票による設定(年間・月間)
→ スローガンの職員室・会議室掲示，スローガンの活用

4 特色あるPTAの充実

- 体育祭・翔工祭等の学校行事における連携・協力による取組
- 地区PTAの充実(親子ふれあい活動)

5 生徒募集につなぐ学校PR活動について

- ものづくり・部活動・資格取得を生かした進路指導の充実
- 地域行事・ボランティア活動への参加・協力
- サンデー学校説明会や出工たより等における情報発信など



【スローガンの会議室掲示】



【出水市大産業祭の様子】

今後の課題

- 職員研修等の充実を図り，相互理解・協力による働きやすい職場づくりに努める。
- 生徒一人一人が大切にされていると実感できるような学校・学級づくりに努める。

「鹿児島県立国分高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

地域の方々から信頼される学校を目指して

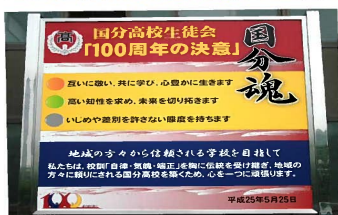
年間活動計画

- 第1回 平成29年7月10日(月)
- 第2回 平成29年12月8日(金)
- 第3回 平成30年2月中旬開催予定

構成メンバー

【構成メンバー】

- ・霧島市PTA連絡協議会(地域女性代表)
- ・中学校長・小学校長・PTA会長
- ・地元企業代表取締役(地域男性代表)
- ・校長・教頭・事務長
- ・4部主任・理数科主任・教務副主任



委員からの意見・要望

- 1 信頼される学校づくりのために、情報発信・広報・啓発活動に努めることが大切。
- 2 進路面において難関大学へチャレンジさせてほしい。
- 3 文武両道で社会に適應する人材育成をお願いしたい。
- 4 先生方のおかげで部活動生による挨拶運動や学校行事も楽しそうである。
- 5 不登校生へのメンタル面におけるサポートや配慮を要する生徒への支援をお願いしたい。
- 6 理数科の活躍をもっとアピールしてほしい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標 私たちは、生徒と共に、校訓「自律・気魄・端正」を胸に伝統を受け継ぎ、地域の方々から頼りにされる国分高校を築くため、心を一つに頑張ります。

めざす生徒像

- 1 向学心に燃え、高い知性と未来を切り拓く力を追求する生徒
- 2 規律正しい生活を送り、礼儀正しく、自律心と品性を備えた生徒
- 3 勉強と部活動の両立を目指し、知徳体のバランスのとれた生徒
- 4 行事や地域貢献活動に積極的に取組み、協働力と共感力を磨く生徒

生徒の取組

- 進路目標達成に向けた学業への取組
- 部活動の充実(ハンドボール部のインターハイ出場、サイエンス部・放送部・美術部・写真部・全国総文祭出場等)
- 課題研究への取組(サイエンス世界大会出場の快挙)
- ボランティア活動、地域貢献活動への積極的参加(熊本地震復興支援活動)



めざすべき教職員像

- 1 教職員としての誇りと高い倫理観をもつ
- 2 教育者として常に自己研鑽に努める
- 3 教育者として常に責任を持った行動規範を確立する。
1~3を通して、生徒・保護者・地域から信頼される教職員となる。

教職員の取組

- OAL研究員による研修と公開授業の実施
- ドリカムプランへの参加による中高連携の確立
- 服務規律に関する個人ファイルの活用(自己チェックの実施とファイリング)
- 教育相談職員研修(8月 講師:教育センター職員, 内容:「学校楽しいーと」「SNSチェックシート」の活用法について)
- 情報セキュリティ職員研修(9月, 講師:本校情報職員, 内容:個人情報管理の在り方について)
- 服務規律の厳正確保に関する標語・スローガンの募集と職朝プリントへの掲載(8月募集, 秋の交通安全運動期間掲載)
- 飲酒運転の根絶に向けて(懇親会等出欠シートの作成)
- 交通安全について職員研修(12月実施予定, 講師:霧島警察署員, 内容:講話, ワークショップ型の研修)
- 地域の方々からのご意見等に真摯に向き合い早期の対応を図る。



今後の課題

- HPやブログ、国分高校通信やメディアによる地域への更なる情報発信(理数科の活躍、地域貢献活動等)
- 自己肯定感の向上
- 進路面でのチャレンジ精神の醸成

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

鹿児島県立志布志高等学校の実践紹介

目指す信頼される学校像

「学校愛」・「地域愛」を育む、「挨拶日本一」の高校

年間活動計画

- 第1回 6月22日
計画、取組についての意見交換
- 第2回 11月16日
取組の進捗状況報告、協議
- 第3回 2月15日(予定)
取組の成果報告と今後の課題
次年度に向けての取組

構成メンバー

- PTA会長 ○中学校校長
- 同窓会代表 ○企業代表
- 地域住民代表
- 本校職員(校長を含む7人)



委員からの意見・要望

- 中学生の心を動かすような広報活動や施策を行わなければ意味がないのではないか。
- ボランティア活動を行う本校生をよく見かける。今後とも積極的に推進してほしい。
- 国道沿いにある卒業生の進学先を紹介する広報看板を見やすくする工夫が必要である。
- 挨拶日本一の取組は地域に元気を与えるものである。是非さらに盛り上げてほしい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標

入学生が「来てよかった」、中学生が「行きたい」、保護者や職員が我が子を「行かせたい」学校づくり

- **個人ファイル（「服務規律の厳正確保のために（保存用）」）の活用**
年度当初の服務規律に関する職員会議で配布する資料から、職員朝礼等で注意喚起を行う資料や新聞記事等をまとめるファイルを作成し、全職員に配布した。学校で通常使用しているものとは異なる目立つ色のファイルとし、常に手元に置き折に触れ服務規律の確認ができるようにした。
- **全職員で分担する服務規律の確認（標語の作成と職員朝礼時における共有化）**
全職員に「服務規律」「学校活性化」「働き方改革」に関する2つ以上の標語の提出を求めた。その標語は毎日職員朝礼プリントに印刷し、司会者が必ず読み上げて共有している。同じ学校の仲間が考案した標語であるためか、意識にとどまりやすいように感じる。
- **「挨拶日本一宣言」とその取組**
「明朗」「素直」「さわやかな挨拶ができる」などの長所をもつ本校生の良さをもっとアピールし、挨拶運動を校外にも広げ地域を活性化させよう。やるなら「日本一」を目指そうと生徒会が発案し、職員側も生徒に「自信と誇り」をつけさせ「個性の伸長」と「自己肯定感の向上」を期待したいとの思いで始めた取り組みである。宣言後、生徒・職員の挨拶への意識が飛躍的に向上した。
- **総学におけるテーマ学習「地域活性化」（地域課題解決型キャリア教育）への取組**
地域の現状を見つめることで課題を発見し、その課題解決に向けた取り組みを通して、自身の進路選択をより具体的に考える学習を進めている。鹿児島国際大学COC+や市企画課、市教委と連携し、本校生のもつアイデアや能力、行動力が最大限に活用できると高い評価をいただいている。
- **PTAによる学校支援**
夏休みに行われた「中学生一日体験入学」において、来校した中学生及びその保護者向けに「かき氷」を、大学入試センター試験前には3年生向けに「勝つかレー」を提供し、保護者自らが「来て良かった」「子どもを行かせて良かった」という意識を高めることができた。中学生の保護者からもその取り組みに高い評価をいただいた。

今後の課題

- 地域により信頼され、さらに志願者が増えるような新たな魅力づくりと効果的な広報活動
- 学校の信頼づくりに不可欠な、生徒の進路希望実現に向けてのさらなる学力伸長への取組

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立鹿屋高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

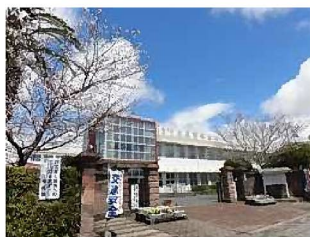
「知・徳・体」の調和的な向上発達に努め、地域に愛される校風を継承し、発展させる。

年間活動計画

- 第1回(7/4)学校概要及び経営方針等説明・校内参観
- 第2回(9/23)校内活動参観等
- 第3回(2月)委員による評価

構成メンバー

中学校長, 中学校PTA代表, 同窓会長, PTA会長, ロータリークラブ会長
校長, 教頭, 事務長, 4部主任



委員からの意見・要望

- ・説明を受けるまで鹿屋高校の実態を知らなかった。もっと鹿屋高校のことを知ってもらう機会を作れないものか。
- ・意欲があれば普通に高校生活を送っている現状を中学校にも説明してほしい。
- ・ロータリークラブの活動に協力してもらっているが、より一層校外ボランティア活動にも参加してはどうか。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標 本校に勤務することに誇りをもち、地域の期待に応える教育活動を展開する

- 1 全職員の服務規律遵守・人権意識向上。ハラスメント防止委員会が全職員から募集した標語を毎朝職員会用資料に掲載したり、通知や新聞記事等を適宜配付・綴じ込み保管。
- 2 ボランティア活動を通じて地域貢献。今年創立50周年を迎えるインターアクトクラブを中心に、地域のロータリークラブとも連携しながら、エコキャップ運動、熊本地震被災地支援、荒平海岸清掃を展開。
- 3 生徒一人一人の進路実現をめざした授業改善。主体的、対話的で深い学びを目指すAL研究指定校として、また、Can-Doリストに基づく四技能の習得をめざす英語教育改善プランの拠点校として授業力の向上に努める。
- 4 生鮮芸術市場を開催し三星文化を地域に発信。毎年1月プラッセだいわ鹿屋店にて、開催。吹奏楽部演奏・書道部・美術部・写真部の作品を展示。
- 5 野外実習 郷土の歴史と自然を探求。毎年11月、土持堀の深井戸や唐仁古墳群、柏原海岸の植生など、郷土の歴史や地理、自然に触れる取組。



今後の課題

- ボランティア活動や三星文化発信の場を、より一層広げ、地域との交流を促進し、ブログや三星の風(学校だより)を通じ、魅力を更に発信していく。
- 一つ一つの授業改善の成果を、学校全体で共有することにより、確かな学力の向上や進学実績につなげていく。

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立種子島中央高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

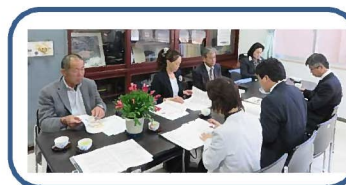
子どもや孫を入学・卒業させたいと思う、地域住民に信頼され、地域の誇りとなる学校

年間活動計画

- 第1回 6月 1日(木)
・ 服務規律指導状況、不祥事防止対策案
第2回 11月 28日(火)
・ 職員研修参観・意見交換
第3回 2月 23日(金)
・ 本年度のまとめ、次年度に向けて

構成メンバー

町教育委員，中学校長，
前PTA会長，保護者代表，
校長，教頭，事務長，4部主任，
学年主任等



委員からの意見・要望

- ・ 学習環境の整備と整理・整頓の徹底をさせてほしい。
- ・ 授業について行けない生徒がいない授業をしてほしい。
- ・ 生徒を引き込む授業をしてほしい。
- ・ 学習法の指導をしてほしい。
- ・ 生徒が将来を考える機会を増やしてほしい。
- ・ 心の教育をしっかりしてほしい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標 全職員の協働による「目指す学校像」の実現と不祥事発生0

※本校の「目指す学校像」は

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ア 確かな学力の定着に努め、多様な進路希望の実現を図る学校 | イ 社会性や協調性を育成する総合選択制の学校 |
| ウ 地域の特性を生かして、豊かな人間性を育む学校 | エ 地域に信頼され、地域の誇りとなる学校 |

- 【教職員】・ 不祥事防止のために新聞記事等を活用したり、標語を作成したりする。
・ 職員朝礼プリントに、毎日、不祥事防止標語や交通安全注意事項を掲載。
・ アンガーマネジメント、ストレスマネジメント等の資料を配布する。
・ 月末の職員朝礼で「事故防止及び服務規律の厳正確保のための10項目点検」を配布し、チェック後は個人ファイルに綴じて、繰り返し自己点検をする。
・ サイコロトーク
 予め、次のようなテーマを決めておき、サイコロの出た目に応じて、職員の思いを語り、自分の言動についても振り返るグループワーク。
 1 飲酒運転の根絶・交通事故防止 2 勤務時の服装・身だしなみ
 3 生徒との接し方や言葉遣い 4 私のストレス解消法
 5 保護者からの苦情等に対する対応 6 心身の健康の保持・増進
・ ヒヤリハットマップ(「ヒヤリ・ハットした体験」を基に、交通の危険な場所を示す地図)作成
・ 服務規律に関する職員研修を委員に参観してもらう。
・ 国語・地歴公民→数学・理科→……のように担当教科を決めて、当事者意識を高めるような職員研修を企画し、実施する。その内容をブログで公開する。
- 【生徒】・ 教育活動の地域への還元(結婚披露宴プロデュース、旅行プランの販売など)
・ 教育活動に関する広報・発信の増加(掲示板、ブログ、広報紙など)
・ 地域でのボランティア活動推進

今後の課題

- マンネリズムに陥らない研修内容の工夫及び校務が多忙化している中で、コストパフォーマンスが高く、当事者意識を高めるような研修の企画と実施
- 生徒・職員が高い交通安全意識を持ち、交通事故・違反0を達成する取組
- 生徒の主体的で深い学びに資する授業力の向上と家庭学習の充実を図る指導体制

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立沖永良部高等学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

活力と魅力に溢れ、進路志望を実現でき、地域の期待に応え発展する学校

年間活動計画

- 第1回 6月21日(水)
本年度の取組等の説明, 意見交換
第2回 11月27日(月)
進捗状況及び成果報告, 意見交換
第3回 2月21日(水) 予定
成果報告, 次年度への提言

構成メンバー

町教育委員, 中学校長, 中学教職員,
保護者代表, 同窓会代表, 地域有識者,
校長, 教頭, 事務長, 4部主任



委員からの意見・要望

- ・地域の行事に部活動生が参加しているのは非常に良いことだ。
- ・両町からの支援(沖高教育振興事業)を積極的にキャリア教育や各種イベントに活用してほしい。
- ・大学合格者が中学校で講話を行う機会を作してほしい。
- ・島外に生徒を出す保護者の意識を変えるためにも、島内で活躍されている方など、優秀な人材を積極的に活用してほしい。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標: 使命感と情熱に燃え、常に資質向上に努め、意識変革を進める

1 服務規律の厳正確保

- ① 倫理観や人権意識を高める校内研修の実施
- ・ 服務規律に関する毎月1回のセルフチェック(職員朝礼時)の実施
 - ・ 情報セキュリティ研修 8月30日実施
 - ・ 警察署から借用したDVD「薬物はすべてを壊す 規制薬物と危険ドラッグ」の視聴
 - ・ 臨床心理士による職員研修「心地の良い人間関係」11月20日実施
 - ・ 研修時に「信頼される教職員・学校を目指して」(県教委発行)の確認・活用
- ② 日常的な取組
- ・ 職員朝礼, 委員会議時に新聞記事等を活用しての意識啓発
→セルフチェック用紙とともに記事等を個人ファイルへ保管
 - ・ 不祥事防止のために各学年, 各部署で話し合ったスローガンを毎朝の職員朝礼プリントに掲載
 - ・ 相互授業参観を通しての授業力向上とA LやI C T機器の活用による授業改善



2 地域との連携

- ① 地域イベントへの参加
- ② 生徒会によるボランティア活動(海岸清掃ボランティア)
- ③ 学校便り「せりよさ」の配布
近隣小中学校や両町役場, 地元企業・商店, マスコミ, 自治会(字)区長 等

3 小中学校との連携

- ① 小中高連絡会(6月, 11月)および出前授業(6月)の実施
- ② 中学生・保護者対象の進学説明会(11月, 12月)の実施
- ③ 公開授業における小中学校職員の参観および授業研究への参加
- ④ 島内(中学)実力テスト問題作成協力(年3~4回)



今後の課題

- 積極的に情報を発信し, 小中学校・地域との連携のもと, 魅力ある学校づくりに努める。
- 母校に誇りを持ち, 主体的に行動し粘り強く努力する生徒を育成する。

平成29年度「信頼される学校づくりのための委員会」モデル校

「鹿児島県立桜丘養護学校」の実践紹介

目指す信頼される学校像

- 学校経営の効率化が図られ、全職員がベクトルを一つにして、学校の課題解決に向けて保護者・地域等と連携して取り組む学校

年間活動計画

- 〔第1回〕（7月）
学校経営方針、服務規律の取組計画説明
- 〔第2回〕（11月）
中間評価、服務規律等の取組経過説明
- 〔第3回〕（3月）
最終評価、服務規律等の取組報告

構成メンバー

- 《外部委員》PTA会長、地域学校代表、関係機関代表（福祉、保健）、有識者（元本校校長）
- 《本校職員》校長、教頭、事務長、教務主任、学部主事（小学部・中学部）



委員からの意見・要望

- 「めざす学校」や「桜養プラン」に服務に関することがしっかりと位置づけられている。
- 委員会で客観的に評価できることは良いことである。期待したい。
- 県立学校で地域と連携した取組を行っていることは良いことだと思う。
- 服務に関する研修は主体的で新鮮に感じる、参考にしたい取組である。
- 交通事故・違反はいつ起こるか分からないので、繰り返し注意を促す必要がある。
- 学習発表会の観客の多さに驚いた。会場の様子から関係者とのコミュニケーションの豊かさを感じた。

信頼される学校づくりを目指した取組

本校職員の目標：教職員一人一人が教育公務員としての自覚を高くもち、責任ある行動を取り、健康でやりがいを感じる。

「みんなで守る桜養の信頼 ～同僚と守り・守られ、育て・育てられる関係づくり～」

服務に関する職員研修

- 4月 服務規律の厳正確保（県通知から）、チェックリスト
- 7月 チェックリスト、少人数グループ討議、全体発表
- 12月 チェックリスト、視聴覚教材の視聴（予定）
- 新聞記事や各種資料等による情報提供、注意喚起
 - ・ サービスファイル用プリントへのコメント記入
 - ・ チェックリストの定期的な活用
 - ・ 職員から提案された標語を、週案や日案に掲載

信頼される学校づくりのために

- 7月 外部講師による人権同和教育研修（アサーティブなコミュニケーション）の実施
- 10月 ボランティアタイム（桜丘東地域住民との公園清掃活動や制作活動を通じた交流活動）の実施
- ヒヤリハット報告や校内ハザードマップの定期的な更新、共有
- ホームページの見直し（記事掲載手続きの簡略化、内容の充実）

働きやすい職場環境のために

- 10月 メンタルヘルスの推進（全国労働衛生週間の紹介、メンタルヘルスに関する資料提供）
- 毎月第2週 健康チェック週間（血圧測定、健康管理呼び掛け）

成果

- 少人数でのグループ討議により、事例を自分のことと捉えて協議し、研修への参加意識が高まった。
- 人権同和教育係による職員研修を、信頼される学校づくりのための研修の一環として位置づけ、認識を深めた。

【職員の感想】（一部）

- 運転についての定期的な指導が気を引き締める機会になっている。
- グループ討議で他の方の意見を聞くことにより、自分の考えとはまた違った考え方を知ることができ、良かった。
- 不適切な指導の事例が、今抱えている自らの課題と近く、グループ討議の意見が解決策の一つとなった。
- 教師自身の心理的・精神的安定が大切であると感じた。



今後の課題

- チェックリストを活用し定期的な振り返りを行っているが、形式的な評価にならないように工夫する必要がある。
- 保護者や児童生徒の評価を年1回実施しているが、内容や時期など更に実効性のある評価に改善していくことが課題である。